

令和2年度第4回

駿東田方構想区域地域医療構想調整会議（駿東・田方合同）

日時；令和3年2月26日（金）午後6時30分～7時40分

方法；Web会議（Zoom使用）

議題1 第8次静岡県保健医療計画（圏域版）の中間見直し（事務局より説明）

（安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長）

在宅療養支援歯科診療所について、第3回の調整会議で数値目標の御意見をいただいた沼津市歯科医師会長の竹内委員より、発言をお願いしたい。

（竹内委員：沼津市歯科医師会長）

在宅療養支援歯科診療所数ということで、目標値を挙げた。数値の根拠は、健康増進課調査による2020年7月31日現在の歯科訪問診療の実施数は、駿東田方圏域で177施設、同等の人口数の静岡圏域では160施設であり、圏域としては進んでいるのではないかとの印象である。そこで、在宅療養支援歯科診療所については、2021年1月1日現在、27施設である。実は、2017年には44施設あった。ところが、平成30年に地域包括ケア推進から、さらに地域との連携を深めるために施設基準の見直しがあり、施設数が減少している。今後、訪問診療を推進するため、以前（2017年）の44施設という目標値を提案した。

（吉田委員：駿東歯科医師会長）

今回の診療報酬改定で、ハードルが高くなった。訪問診療は、駿東歯科医師会でもしっかり行っている。訪問件数は増えている。「在宅療養支援歯科診療所1」を取らない歯科医師会員がいる。目標を掲げてもらうことによって、「在宅療養支援歯科診療所1」取ってもらえるように、方向づけをしていきたい。

（栗原委員：三島市歯科医師会長）

三島では、67歯科診療所のうち、診療回数はまちまちであるが、2/3が在宅診療に携わっている。しかしながら、「在宅療養支援歯科診療所」を算定要件とすると、手続等大変な面はあるが、積極的に働きかけていこうと思う。

（安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長）

今回は、長寿社会保健福祉計画との整合性を図るということで、在宅医療、認知症、地域リハビリテーションの見直しに限っている。意見、質問はあるか。

（竹内アドバイザー：浜松医大特任准教授）

資料3ページの（2）2023年の必要量を示されたが、2020年との比較で、介護医療院及び療養病床が約3倍、訪問診療が約1.3倍、小規模多機能型居宅介護が4倍以上と見込量が増えている。介護医療院及び療養病床の内訳を教えてください。訪問診療の見込量が

増えていることの対応状況を教えてほしい。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

現在、手持ちの資料がないため、確認させていただき、連絡させていただきたい。

それでは、これでよろしければ、承認いただいたということによろしいか。

(異議なし)

ありがとうございます。承認いただいたということで、次に進める。

議題2 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について（事務局より説明）

(志賀委員：伊豆赤十字病院長)

説明していただいたとおりであるが、中伊豆温泉病院とともに、順天堂病院の後方支援病院としての機能を今後とも活かしていこうと思っている。中伊豆温泉病院は、整形外科・リハビリを中心に、伊豆赤十字病院は内科を中心にいうことで、現在、住み分けは出来ている。それに加えて、地域包括ケア病床や在宅診療・在宅看護についても、積極的に進めていく予定である。現在のところ、我々の地域としては、住み分けも出来ており、方針もこれでよいと考えている。理解を願いたい。

(紀平委員：田方医師会長)

田方医師会としては、順天堂病院を核として、中小の病院が連携しながらやっていく。資料にも出ているように、伊豆赤十字病院と中伊豆温泉病院も、それぞれ特徴を生かして地域で診療しているので、ぜひこのまま続けていっていただきたい。田方圏域は、地域の面積が広くて、非常に交通の便も悪いので、今後統合ということになると、住民が困る。それぞれの位置でしっかりと特徴をだし、例えば、中伊豆温泉病院は整形外科中心とか、伊豆赤十字病院は内科、また、伊豆保健医療センターは外科というように、それぞれ特徴持って連携しながらやっていくという方針なので、続けていっていただきたいなと思っている。

(佐藤委員：順天堂大学医学部附属静岡病院長)

順天堂病院としては、後方病院が必要な状況である。この2つの病院と病々連携を深め、そして、紹介・逆紹介を推進していき、お互いに盛上っていきたいと考えているので、是非、存続を願う。

(石井委員：看護協会 中伊豆温泉病院看護部長)

順天堂病院を軸とし、整形外科を主の診療科とて、現在やっており、役割を担っていきたいと思っている。3年後の新病院についても、急性期医療のところも少し拡大しながら、地域住民の健康増進に寄与して参りたいと思っている。

(竹内アドバイザー：浜松医大特任准教授)

既に、先生方のお話の通りで、田方地域については、機能分担と連携するという本来の地域医療構想の趣旨が、非常に生かされた運営が既になされていると思う。今後も、引き続きこのような形での連携体制を保って、地域医療を守っていただければと思う。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

それでは、こちらの対応方針も承認いただいたということによろしいか。

(異議なし)

承認いただいたということで、進めさせていただきます。

議題3 令和2年度病床機能再編支援事業費補助金について(事務局より説明)

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

3診療所の先生方より計画の説明をお願いします。

(発言者 遠藤先生：遠藤クリニック)

この度、病床削減計画に持っており、縮小の内容を説明する。概要ですが、病床削減の数ですが、16床から11床に5床減少。見直し前、急性期病床が16床で、削減後は11床となる。そして、見直しの必要性等についてですが、クリニックの現状を鑑み、病床利用率を検討した。現在の病床稼働状況には余裕があり、病床削減による診療への支障はないという状況である。また、医療スタッフの人員の確保や院内の管理状況を踏まえると、現状の病床数を継続していくことが難しくなると考えられた。減少した病床数の考え方ですが、急性期病床の需要の低下を踏まえて5床減少させていただきたい。また、近隣病院の静岡医療センターに患者を紹介対応できるため、診療的には問題ないと考える。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

沼津医師会管内の診療所になるので、西方委員の意見を願います。

(西方委員：沼津医師会長)

遠藤クリニックの遠藤先生は、沼津市内の複数のクリニックとチームを組んで在宅医療を積極的に行っている。その在宅の患者さんの病状が悪化した時には、その入院先として、貴重なベッドであるとの認識ではあるが、利用率に余裕があるということ、また有床診療所として、ベッドを維持していくために、従業員の確保などいろいろ難しい点もあるかと思うので、削減はやむなしと考えている。

(発言者 山口先生：B&Rクリニック山口医院)

今まで9床で診療を行ってきたが、出産を取り扱わなくなり、去年の4月から2床で行っている。分娩を取り扱わないということで、このまま2床でやっていきたいと思う。

(発言者 宇野先生：宇野眼科医院)

当院は、当初は網膜剥離や外傷など色々な患者を扱い、病床も多く使用し、また、最初の頃は白内障も入院を主としていたので、ベットが必要であった。しかし、最近は白内障は、ほとんどが外来手術、それから、大きな手術をやらなくなってきた。9床は必要ないということで、とりあえず、3床減らして、十分可能かと思い、お願いした次第である。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

2つの診療所は函南町にありますので、田方医師会管内の診療所になるので、紀平委員の意見を願います。

(紀平委員：田方医師会長)

山口医院は、やはり産婦人科ということで、現在、妊婦さんが少なくなっている。それと従業員の人も大変と思うので、これは妥当であろうと考える。また、宇野眼科医院におきましても、現在、白内障手術は日帰りでするようになってきている。それと大きな疾患については、順天堂病院が多くの眼科医がおり、そしてオペ室も増やしている。そこで、やっていただけるようになってきていると思う。故に、こちらでも妥当と考える。

(佐藤委員：順天堂大学医学部附属静岡病院長)

山口医院は順天堂病院に非常に近いので、おそらく出産等は順天堂病院に回ってくると思う。その回ってくる患者の負担が、やはり順天堂病院に増えるということで、順天堂病院は、非常にベットが不足している状況ですが、このような返還したベットを順天堂病院に回していただけるような配慮はないのか。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

現在、そのところはあります。

(西方委員：沼津医師会長)

産科の医師の病床の話が出たので、少し述べたいのだが、沼津医師会でも、実は分娩を扱う診療所は少ない。そのような中、昨年の12月に分娩の取り扱いをやめる診療所があった。裾野市において、月に50件ぐらい分娩を扱っている診療所が3月末で取りやめる。産科の診療所が非常に少なくなっている。やはり地域の中で、現在、少子化で、コロナでお産を希望される方も少ないとは思っている。今後、産婦人科の診療所が減っていくと、病院の先生に非常に負担が増えるのではないかと、懸念している。周産期に関連し、小児科も、現在、静岡医療センターが小児科がなく、沼津市では沼津市立病院と聖隷沼津病院の2病院だけで、小児科の待機を行っている状態である。その周産期ということを見ると、この地域は非常に危機的な状態である。ですから、病院のベットを増やして、その部分を受けた部分を補助するということを考えていただくと、非常にありがたいと考える。

(紀平委員：田方医師会長)

私も、ベットの件について、よくわからないのだが、二次医療圏ではある数のベッド数が決まっているということがあり、どこかの医療機関が返還しなければ、順天堂病院で困っているベッドの増加ができないんですね。今の話のように眼科も産婦人科も、それぞれお辞めになって、それを順天堂で手術やお産をお願いするとなっても、ベッドがないと順天堂病院も困ると思う。その辺りを私たちが何とかしたいと思っても、そこをどういうふうにしたらいいか、竹内先生にも意見をいただきたいと思う。

(竹内アドバイザー：浜松医大特任准教授)

基準病床数の問題があると思う。全県、現在すべてオーバー圏域である。原則からすれば、病床を増やすことは難しく、基準病床数まで下げていくということになると思うが、地域で必要な医療を確保するための特例事項が、あると思うので、その部分をどのよう

に判断するかいうところもあると思うので、そこを県でも検討していただければと思う
(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

竹内アドバイザーからもあったように、基準病床・既存病床ということがある。また、特例という事例もあるが、国の方の基準が辛いところである。また、保健医療計画の見直しもあるので、周産期の関係は、その辺りがまた議論ということになるかと思う。

(佐藤委員：順天堂大学医学部付属静岡病院長)

保健所や県では、このようなことが決められないと思うが、そのために調整会議を開催しているので、地元の先生方や医師会長の先生方のご意見を聞いて、それでこのような状況であれば、やはり保健所や県が動くべきだとは思うが、いかがか。

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

佐藤委員の発言の通りなのだが、現在、基準病床・既存病床という縛りがある。ここの部分は、県・保健所でなかなかできないところである。国も基準病床をオーバーした場合の特例はかなり基準が高いところがある。また、保健医療計画で周産期のことを議論することがあるので、そこでの議論になるかと思う。

(山本副班長：医療政策課)

先程、話があった特例病床等の病床の関係については、また今後、そのような意見いただいたことも踏まえて、対応について検討させていただきたいと思う。

(紀平委員：田方医師会長)

本当に、田方圏域では非常にこの問題に困っており、私たちが何とかしたいと思っても、なかなかできないので、是非、この調整会議でのこの件について、よろしく願いしたい。

報告 地域医療介護総合確保基金について（事務局より説明）

意見・質問等なし。

その他 COVID-19 の対応状況（安間委員より説明）

(安間委員：東部保健所長兼御殿場保健所長)

東部保健所及び御殿場保健所・駿東田方圏域のコロナウイルス感染症の発生状況を示したグラフである。4月1日からの発生から、第1波から第3波の人口10万人あたりの数を示している。特に、年末年始12月から1月ぐらいまで、非常に発生数が多くなっており、各医療機関の皆様方には、大変御苦勞、御迷惑をかけてしまって思っており、当保健所も非常にこの件での対応に忙殺されたという印象がある。

(西方委員：沼津医師会長)

沼津市で開設しております地域外来検査センター（PCRセンター）ですが、患者の増加に伴い、検査の件数が11月、12月、1月とかなり数が増えていたが、2月に入ってから、だいぶ減ってきており、現在では、1回に2～3件というような状況。現在、自ら検査を行う診療所が75件とだいぶ増えてきており、そろそろPCRセンターの役割は終わりと考えている。一応、3月中旬で廃止・中止することになっている。

(齋藤委員：御殿場市医師会長)

報道でもあったように御殿場市医師会管内で、自衛隊とある病院でクラスターが発生し、従業員や自衛隊関連では、若い親が多いため、結構、市内全体の影響力が多い。保育園や幼稚園などでも、かなり親が過敏になった時期があった。現在はすべて落ち着いて、市も平穏を取り戻しているという状況であり、検査数自体も減っている。沼津医師会と同様に、PCRセンターは、3月末で必要なくなるということで、休止という方向で動いている。

(池田委員：三島市医師会長)

三島市の一次医療機関である三島メディカルセンターでは、12月30日から1月3日まで、内科当直とは別に、発熱外来担当医おき、対応した。COVID-19の抗原定性検査に加えて、その陽性者には東部保健所が休み中対応したPCR検査を加え、結局計5人、感染者を検出した。その後は、メディカルセンターでは感染者ゼロが続いている。三島総合病院、三島中央病院ともに現在、PCR検査機械を導入しており、感染病棟は持っていないが、発熱外来をかなり頑張っているため、患者が回っていると思う。2月中は現在も8月、発熱外来担当医を日曜休日に配置しているが、3月以降は内科当番のみにしようと思っている。これからの話は全くの推測なんですけど、1月の東部地域での患者の増加は、どうも深夜の街感染がかなり絡んでいたのではないかと考えている。これも本当に未確認の情報ですが、緊急事態宣言が発令以降、結構、神奈川県から夜の街関連の女性が移動してきた話を聞いている。そうすると、三島市だけではなく、当然のことながら、沼津市・裾野市・長泉町・清水町・函南町というところは、飲み屋さんたちの一緒の共通圏内になる。安間所長にお願いですが、可能であれば、東部保健所管内全域の患者情報を市町の担当者に送っていただき、何とか患者の状況を確認出来ないかなと思う。あくまでも、三島市の状況だけ見ていると、そこから推測するしかなくない。守秘義務など大変難しい問題あると思うが、そこ辺りを検討いただけるとありがたい。

(紀平委員：田方医師会長)

田方医師会は、2市1町からなり、現在、その中の伊豆の国市で、小さいクラスターがあり、感染者が増えた。函南町、伊豆市の方は、比較的少なくて済んでいる。現在は、それぞれの医療機関で発熱外来を持っており、半数以上がPCR検査が出来る。順天堂病院でもPCRの実施の公表言っており、田方医師会実施していたPCR検査センターも、3月末で休止と思っている。現在、ワクチン接種ですが、田方医師会管内では、人口が11万。その8割が接種し、抗体を持ってもらわなければ収束しないだろうと思っている。約9万人に2回ずつ接種すると、本当に医師不足で大変である。ですから、PCR検査センターに力を向けるよりも、ここで休止して、ワクチンの接種体制に全力を挙げたいと医師会では思っている。

(竹内委員：沼津市歯科医師会長)

ワクチン接種についてですが、市町でそれぞれ計画が練られていると思うが、歯科の方も医療従事者として第1グループということで、接種が決まっていたりするが、どの程度進んでいるのかなかなか情報が入らない状況である。状況を伺いたい。

(西方委員：沼津医師会長)

集団接種の会場の準備ということで、県にワクチンの入手の状況を伺ったが、非常に厳しいということで、総理大臣は4月から高齢者の接種と言っているが、ワクチンが入ってくるのは、少しのみで、集団接種に使用すると空振りに終わってしまう可能性が高い。そこで、沼津市は3月4月の予定は全部無しにし、5月の連休以降にする接種を始める話になっている。